

## 学部基礎科目の目次 (2017年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(16E・17E)の科目区分別に編成されています。15E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経 済 数 学 入 門	イ	……	1
経 済 数 学 入 門	ロ	……	3
統 計 学 入 門	イ	……	4
統 計 学 入 門	ロ	……	6
経 営 学 入 門		……	7
簿 記 入 門	イ	……	8
簿 記 入 門	ロ	……	9
経 済 史 入 門		……	11
ミ ク ロ 経 済 学 I	イ	……	13
ミ ク ロ 経 済 学 I	ロ	……	15
マ ク ロ 経 済 学 I	イ	……	17
マ ク ロ 経 済 学 I	ロ	……	19

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310121) 経済数学入門イ Introduction to Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	経済数学、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学等、経済学を学習する上で必要となる数学のうち、微分・積分に関連する分野を講義する。			
授業の目的 ミクロ経済学・マクロ経済学等の経済学では、「生産量を増やすと費用はどれだけ増えるか」「価格を下げると需要量はどれだけ増えるか」等のように、数量と数量の関係(数学用語を用いれば、変数と変数の関係)を頻繁に議論する。とりわけ、「利潤を最大にするにはどれだけ数量を生産すればよいか」等のように、最適化の問題はとりわけ重要である。このような変数間の関係を議論するために必要な数学的手法が微分・積分である。本講義では、経済学を学習する上で必要となる微分・積分の手法を学習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・微分、偏微分、積分の意味を説明できる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。</li> <li>・基本的な関数の微分、偏微分、積分の計算ができる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。</li> <li>・経済学において微分、偏微分、積分の手法がどのように使えるのか、簡単な例を用いて説明することができる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。</li> <li>・経済学における基本的な最適化問題を解くことができる (DPの「b. 知識・理解」に対応)。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 宿題 (30%)、期末試験 (70%) により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。</p> <p>予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。</p> <p>第1回 イントロダクション、微分・積分とは何か</p> <p>～第1部 微分の基礎～  第2回 微分の基礎的な概念と手法 (1)  第3回 微分の基礎的な概念と手法 (2)  第4回 2階微分、凸関数・凹関数と最大・最小  第5回 極限に関する厳密な議論</p> <p>～第2部 積分の基礎～  第6回 不定積分  第7回 定積分と面積の計算  第8回 積分の経済学への応用</p> <p>～第3部 微分の発展～  第9回 べき乗・指数関数・対数関数と微分 (1)  第10回 べき乗・指数関数・対数関数と微分 (2)  第11回 合成関数の微分  第12回 2変数関数の微分  第13回 条件付き最大化問題  第14回 微分の経済学への応用</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。</p>			

**【授業及び学習の方法】**

授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。

**【自学自習のためのアドバイス】**

反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。

**【授業形態】**

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

下記書籍を購入し参照することを推奨する。ただし、他にも良書はあるので、自分の好みに応じて選んでも良い。

尾山大輔他（編著）『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』2012年、日本評論社、2100円＋税

オフィスアワー 月曜日4校時

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310122) 経済数学入門 Introduction to Mathematics for Economics	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (準備時間15時間+事後学習45時間)			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる基礎数学 (特に微分・積分と偏微分) について、定理の証明よりも概念の理解と公式の運用に重点を置いて講義します。高校数学の復習からはじめて、経済学における活用例を交えながら解説します。			
<b>授業の目的</b> 経済学で使う微分・積分と偏微分の基礎を理解する。経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 微分・積分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分・積分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します。詳しくは初回授業で説明します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 進行状況により若干の変更をする可能性があります。 第1回 ガイダンス, 経済学で扱う基本関数 (1) 第2回 経済学で扱う基本関数 (2) 第3回 経済学で扱う基本関数 (3) 第4回 経済学で扱う基本関数 (4) 第5回 経済学で扱う基本関数 (5) 第6回 微分・積分とその応用 (1) 第7回 微分・積分とその応用 (2) 第8回 微分・積分とその応用 (3) 第9回 微分・積分とその応用 (5) 第10回 等高線と偏微分 (1) 第11回 等高線と偏微分 (2) 第12回 等高線と偏微分 (3) 第13回 等高線と偏微分 (4) 第14回 2変数最適化問題 (1) 第15回 2変数最適化問題 (2), まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は講義形式で行います。理解度確認のためのクイズに答える時間を設けます。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> ・受講生は復習を重視した自学自習を行ってください。授業内容は連続しているので、授業前には前回の内容を再確認してください (15時間)。授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み、計算や作図を自分の手で行い、自分の理解を確認してください (40時間)。また理解を深める上で、エクセルなどPCソフトで関数グラフを描いてみることも有効です (5時間)。 ・各回のキーワードは以下の通りです。 第1章 (1回～5回) : 1・2・3次関数, 指数法則, 累乗関数, ネイピア数e, 逆関数, 指数関数, 対数関数 第2章 (6回～9回) : 微分係数と接線, 微分公式, 第2次導関数, 増減と凹凸, 不定積分と定積分 第3章 (10回～13回) : 偏微分係数と偏導関数, 偏微分公式, 等高線の傾き, 全微分と接平面 第4章 (14回～15回) : 停留点と鞍点, 等号制約付き最適化問題			
<b>教科書・参考書等</b> <b>【教科書】</b> 使用しません。授業資料を配布します。 <b>【参考書】</b> 詳しくは初回授業で紹介します。 ・丹野忠晋 (2017) 『経済数学入門：初歩から一歩ずつ』日本評論社。 ・白石俊輔 (2014) 『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社。 ・尾山大輔・安田洋祐 (2013) 『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版, 日本評論社。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日4時限目 (予定), 南キャンパス4号館3階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 最初のうちは高校の復習が多くなりますが、油断せずに継続して出席することが大切です。			

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310141) 統計学入門Ⅰ Introduction to Statistics 統計学の基礎	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学	
	履修推奨科目	統計学	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる。このうち「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する。「統計学」では標本を取り出してそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測について学習する。この2科目で大学学部基礎レベルの統計学を学習する。			
<b>授業の目的</b> 全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である。実際のデータの持つ情報を読み取り、判断のよりどころを得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1年次前期の「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方が理解できるようになる。1年次後期の「統計学」では、標本を取り出しそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測の考え方を理解できるようになる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験(100点満点)による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業の方法】</b> 講義ノートによる板書講義。テキストはその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。随時、練習問題を解く。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。  この科目は基本的に対面で授業を行う予定だが、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合がある。			
<b>【授業計画】</b> 第1回. 統計学とはなにか 第2回. 統計データの種類(量的データ, 質的データ, 時系列データ, 多変数データ) 第3回. 統計データの尺度(順位尺度, 名義尺度, 間隔尺度, 比率尺度) 第4回. 統計表のグラフ表現(度数分布とヒストグラム) 第5回. 中心の位置の統計量(最頻値, 中央値, 平均値) 第6回. 中心の位置の統計量(度数分布表の平均, 加重平均) 第7回. 変化を表す統計量(変化幅, 変化率, 寄与度, 寄与率) 第8回. 散らばりの統計量(分散, 標準偏差, 四分位偏差) 第9回. 標準偏差の活用(チェビシェフの不等式, 変動係数, 標準化) 第10回. 散らばりのグラフ表現(四分位範囲, 箱ひげ図) 第11回. 2変量の関連性(散布図と相関係数) 第12回. 確率(確率の定義, 条件付き確率, 事象の独立性) 第13回. 確率変数と確率の対応関係 第14回. 母集団と標本(標本抽出, 全数調査と標本調査) 第15回. 記述統計の総括と推測統計学(統計的推測)へ向けて [期末試験]			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 毎回、テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間、事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題(練習問題)を課すので、それを解くのに2時間が基本パターン。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書: 4月時点では『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』のみ購入すればよい。 『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円+税 『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円+税 (注意) 授業の第1回～第11回で『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』のすべての章を扱う。第12回～第15回で『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』の第1章～第3章を扱う。なお、後期の「統計学」では『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』のすべての章を扱う。			

オフィスアワー 月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 「統計学入門」と「統計学」の2科目で、大学学部基礎レベルの統計学を学習する。後期の「統計学」を必ず履修すること。
2. 2/3以上出席していない場合、成績は自動的に不可になる。
3. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。
4. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する。

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310142) 統計学入門 Introduction to Statistics	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	線形代数	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 社会経済と企業管理経営など関連する課題をよく認識・理解するため、統計データの特徴を見出し、複雑な現象から有益な統計情報を抽出する必要がある。本講義ではデータ分析の基本技法の習得を重視し、身近な例を取り上げながら統計学の基礎を中心に解説する。数学の予備知識を前提としないが、必要に応じて補講する。			
<b>授業の目的</b> データ処理と統計分析の基本技法を習得する。 Excelなどを用いての統計処理分析能力を養成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
統計学の理論体系を認識する。 統計データの基本特徴を示すことができる。 多変数データの相関と回帰分析をすることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小テストと期末試験などにより総合評価する。 小テスト30%、期末試験70%。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 授業形態：対面により実施することを基本とする。状況によって数回Zoomによるオンライン式（適時周知する）。			
第1回 ガイダンス、関連する数学の基礎 第2回 統計学とは何か 第3-5回 度数分布とヒストグラム 第6-9回 データの特性値 第10-12回 多変数データの整理 第13-14回 回帰モデルによる統計的分析 第15回 まとめ  自学自習： 第1～2回 テキストの第1章 第3～5回 テキストの第2章 第6～9回 テキストの第3章 第10～12回 テキストの第4章 第13～14回 テキストの第10章			
<b>教科書・参考書等</b> 田中勝人、『統計学』（第2版）、新世社。1900円+税。 ＊適時講義資料を配布する。			
オフィスアワー 火曜日 4校時、幸町南7号館3F、姚研究室。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 1. 是非予習・復習をしてください。 2. 対面式で行う際に携帯電話をマナーモードにしてください。			

ナンバリングコード B1BSN-bcxE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320201) 経営管理論 Management and Administration 経営管理論	科目区分	時間割 前期火5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営戦略論, 経営組織論, 人的資源管理論	
	履修推奨科目	経営戦略論, 経営組織論, 人的資源管理論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 本講義は、初めて経営学を学ぶ学生を対象として、企業経営の全体像は何か、経営学の全体像は何か、経営学を学ぶ意義は何か、経営学をどのように勉強すればよいか、などを説明する導入科目である。経営学各分野の諸理論と企業経営の実例を紹介しながら、経営学の概要を分かりやすく講義したい。			
<b>授業の目的</b> 経営学と企業経営の全体像を理解してもらうのが本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 企業と経営の仕組みについて自分の言葉で語ることができる(学士課程のDP「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 企業経営の実際を考察する際に必要な基本的な考え方を身に付ける(学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験70%, 小テスト30%を目安にして、総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。			
第1回 インTRODクション 第2回 企業経営の全体像 第3回 経営学の全体像 第4回 企業と会社 第5回 企業とインプット市場との関わり 第6回 企業とアウトプット市場との関わり 第7回 競争戦略のマネジメント① 第8回 競争戦略のマネジメント② 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 マクロ組織のマネジメント 第12回 ミクロ組織のマネジメント 第13回 キャリアデザイン 第14回 経営学の広がり① 第15回 経営学の広がり②			
*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 講義前・講義後には、テキストの関連内容について予習・復習をしてください。			
*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>教科書・参考書等</b> 加護野忠男・吉村典久(2021)『1からの経営学(第3版)』碩学舎。2,400円+税。生協で販売。 (教科書は、受講生が各自で入手すること。)			
<b>オフィスアワー</b> 事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。			



ナンバリングコード B1BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320312) 簿記入門イ Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	会計学総論, 株式会社社会計, 監査論	
	履修推奨科目	会計学総論, 株式会社社会計, 監査論	
学習時間 90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 本講義は入門レベルの商業簿記を講義する。受講者としては簿記初心者进行想定している。簿記とは、企業の経済活動を一定のルールにしたがって帳簿に、記録・計算・整理する技術である。簿記を学ぶことは、会計学を学ぶための基礎となるため、会計学に関心のある学生は、ぜひ受講してもらいたい。			
<b>授業の目的</b> 入門レベルの複式簿記の習得を目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
複式簿記の基本的原理を理解し、習得することができる (知識・理解/問題解決・課題探究能力)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験による。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> [授業計画]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義には必ず電卓を持参すること。</li> <li>・簿記をマスターするためには、とにかく練習問題を繰り返し解くことが必要である。このため、教科書等を利用した自学自習が極めて重要である。</li> </ul> 第1回 簿記の意義・目的・種類 第2回 簿記の要素 (その1) ～資産・負債・資本と貸借対照表～ 第3回 簿記の要素 (その2) ～収益・費用と損益計算書～ 第4回 簿記上の取引 第5回 勘定とその記入法 第6回 仕訳と転記 第7回 試算表 第8回 中間まとめ 第9回 決算 (その1) ～帳簿決算①～ 第10回 決算 (その2) ～帳簿決算②～ 第11回 決算 (その3) ～損益計算書と貸借対照表の作成～ 第12回 現金・預金取引 第13回 商品売買取引 第14回 その他の債権・債務取引 第15回 手形取引			
[自学自習のためのアドバイス]  第2～15回  簿記は積み上げ式の学習が必要となる。そのため、前回の講義の復習が欠かせないことに留意する。			
<b>教科書・参考書等</b> 井上善弘『複式簿記入門』美巧社, 2021年, 2,200円 (近刊)。			
オフィスアワー 授業後随時受け付ける。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業に毎回出席すること。予習・復習を怠らないこと。授業は教科書の内容に沿って進められるため、教科書を必ず購入すること。本講義は対面授業として実施される。但し、状況によっては遠隔授業となることがある。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320313) 簿記入門 Introduction to Bookkeeping	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	原価会計論および会計関連の授業	
	履修推奨科目	原価会計論	
学習時間	講義90分×15回+自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)		
<b>授業の概要</b> 簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が（国際）会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。 この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当て、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。 以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。			
<b>授業の目的</b> どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金（会計）に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金（会計）に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能（スキル）を身に付けること」です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる (2) 個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
[授業の方法] 口述筆記、板書、演習、理解度クイズ ※全回対面授業です。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 ※提出物はレポートBOXへ毎週提出予定です。			
[授業計画 (予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 複式簿記の基礎①(簿記とは?、貸借平均の論理、残高) (第3週) 複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは?) (第4週) 複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方) (第5週) 複式簿記の基礎④(仕訳と転記) (第6週) 複式簿記の基礎⑤(振り替えとは?、決算とは?) (第7～9週) 複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り) (第10週) 帳簿体系の基礎+個別取引(現金、現金出納帳、当座預金) (第11週) 商品取引(分記法と3文法、売掛金元帳・買掛金元帳) (第12週) その他の債権・債務①(未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など) (第13週) 手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳 (第14週) 決算整理(減価償却、有価証券の時価評価など) (第15週) 3分法による決算の処理			

<p>[自習学習に関するアドバイス]</p> <p>&lt;基本&gt; (第1～15週) 毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。(15時間)</p> <p>※大学に来ることができないなどの状況の際には、提出方法を変更します。</p> <p>(第1週) この授業を学ぶ意味を、配布資料をもとに考えてみて下さい。(3時間)</p> <p>(第2～5週) 簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。(20時間)</p> <p>(第6週) 仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。(3時間)</p> <p>(第7週) 振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。(3時間)</p> <p>(第8～9週) 決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。(6時間)</p> <p>(第10～15週) 帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように繰り返し復習して下さい。(18時間)</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>[教科書] (予定)宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2021</p> <p>[参考書] 醍醐 聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計 (新訂版)」実教出版</p>
<p>オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこられなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。</p>

ナンバリングコード B1ECN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331010) 経済史入門 Introduction to Economic History	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	日本社会経済史、経営史	
	履修推奨科目	日本社会経済史、経営史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 人々の経済的営みの集積の果てに、今日の私達を取り巻く経済的環境が形成されている、という理解に立った時に、それでは、どのようにして、今日の経済的環境は形成されてきたといえるのだろうか。 本科目は上述した問いに対する学術的接近を、経済史という学問領域より行うこととする。具体的には近代という時代に着目して、経済史の概説を講義する形態をとって、接近していく。その際、(1)近代の経済を、ヨーロッパを中心として、①人口、②市場、③工業化、という三点に着目してその発展を考察し、近代以前の時代との連続・非連続的側面についても併せて考察する。(2)19世紀の世界経済をヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の関係に力点を置いて、大量生産社会への移行と国際経済の生成・発展に留意しながら考察する。(3)20世紀の世界経済を、二度の世界戦争と民族独立運動の展開に留意しつつ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の経済的関係の推移に力点を置きながら考察する。以上のことがらに焦点を合わせて講義を進めていく。			
<b>授業の目的</b> 近代という時代を中心とした経済史について、その基礎知識の習得を目的とする。今日、私達は経済のグローバル化を当然のものとして理解している。しかし、人口の増大、市場圏の拡大、機械制大工業による大量生産の実現等が世界の各地で果たされた結果、ようやく19世紀に国際経済システムが生成されるに至った。以上述べたように、私達が常識として理解している経済的諸問題を、その端緒から帰結に至るまで歴史的に考え、理解していく。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 近代経済における地域的多様性を説明できる。 2) 一国的枠組ではなく、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末レポート(80点)と、集中講義各日終了後に提出を行なってもらう、各日講義感想レポート(4点×5日=20点)で成績を判断する。 なお、授業アンケートを課す可能性があるが、その際、優れた意見の提出者には、更に加点する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する。 毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1)イントロダクション: 経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2)～(3)「産業革命」(1)「産業革命」とは何だったのか? (※講義回数2回) (4)～(5)「産業革命」(2): 「産業革命」前史—近世ヨーロッパ経済の諸相とプロト工業化の時代 (※講義回数2回) (6)「産業革命」(3): ヨーロッパにおける都市化と工業化①イギリスの事例 (7)「産業革命」(4): ヨーロッパにおける都市化と工業化②フランス・「ドイツ」の事例 (8)「産業革命」(5): 新大陸の工業化と都市化 (9)国際経済の展開と帝国主義の時代(1): 「大不況期(1873-96)」における産業的競争激化 (10)国際経済の展開と帝国主義の時代(2): 国際経済の生成と発展 (11)国際経済の展開と帝国主義の時代(3): 「帝国主義の時代」におけるヨーロッパ・アジア諸国の経済的動向 (12)20世紀の世界経済(1): 第一次世界大戦～両大戦間期における諸国の経済的動向 (13)20世紀の世界経済(2): Managed Economyの時代—世界大恐慌のインパクトと1930～40年代前半における諸国の動向— (14)20世紀の世界経済(3): 第二次世界大戦後の世界経済 (15)講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直すしておく。 なお、本科目の講義内容は、高校の歴史系科目との接続を考慮している。 高校時代購入した世界史の図説集を予習・復習時に用いることで、更なる理解が可能になる。特に世界史の図説集として、『最新世界史図説タペストリー19訂版』(帝国書院、2021年、870円+税。※古い版のものでも問題ありません)を推奨する。			
※この科目は全回遠隔授業を行います。			

教科書・参考書等

- ・【参考書】：岡田泰男編『西洋経済史』（八千代出版、1995年、3200円+TAX）。
  - ・【参考書】：長岡新吉・太田和宏・宮本謙介編『世界経済史入門－欧米とアジア－』（ミネルヴァ書房、1992年、3,200円+TAX）、北川勝彦他編『概説世界経済史』（昭和堂、2017年、2,300円+TAX）は、通読を望む。
- また、各回の講義における配布資料には、参考文献を記載する。

オフィスアワー 各日の講義終了後に、講義を行なうZOOMのミーティングルームにて、オフィスアワーを設ける。それ以外にも、メールで連絡をもらえれば、随時対応する。担当者のメールアドレスは、[sheisrain@yahoo.co.jp](mailto:sheisrain@yahoo.co.jp)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は参考書を指定するが、参考書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 312011) ミクロ経済学 I イ Microeconomics I	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学 II	
	履修推奨科目	経済数学入門、経済数学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台としています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場（マーケット）」が果たす役割を考えます（これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます）。 ミクロ経済学 I と II でミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。前半の本講義では、(1)需要と供給、(2)消費者行動、(3)生産者行動、(4)市場均衡と資源配分の各トピックを学習します。			
<b>授業の目的</b> 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、(1)需要と供給、(2)消費者行動、(3)生産者行動、(4)市場均衡と資源配分の理論を習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・ミクロ経済学の観点から、消費者の需要と企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題 (30%)、期末試験 (70%) により評価します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 イントロダクション 第2回 需要と供給 (1): 需要・供給と市場均衡 第3回 需要と供給 (2): 需要と供給の価格弾力性 第4回 消費者行動 (1): 効用・無差別曲線・予算制約線 第5回 消費者行動 (2): 効用最大化問題とその解 第6回 消費者行動 (3): 所得変化の効果 第7回 消費者行動 (4): 価格変化の効果 第8回 消費者行動 (5): 需要曲線と消費者余剰 第9回 生産者行動 (1): 費用の構造 第10回 生産者行動 (2): プライステイカーの利潤最大化 第11回 生産者行動 (3): 供給曲線と生産者余剰 第12回 生産者行動 (4): 独占企業の利潤最大化 第13回 市場均衡と資源配分 (1): 市場均衡の効率性 第14回 市場均衡と資源配分 (2): 政策の余剰分析 第15回 市場均衡と資源配分 (3): 独占市場の資源配分			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。			

**【授業形態】**

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを1冊以上選び、講義と並行して精読すること。

芦谷政浩『ミクロ経済学』、有斐閣、2009年、3100円＋税

神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年、3200円＋税

その他は初回授業時に指示します。

オフィスアワー 月曜日 4時限

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 312012) ミクロ経済学 I ロ Microeconomics I	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学 II	
	履修推奨科目	経済数学入門、経済数学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台としています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場（マーケット）」が果たす役割を考えます（これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます）。 ミクロ経済学 I と II でミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。前半の本講義では、(1)需要と供給、(2)消費者行動、(3)生産者行動、(4)市場均衡と資源配分の各トピックを学習します。			
<b>授業の目的</b> 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、(1)需要と供給、(2)消費者行動、(3)生産者行動、(4)市場均衡と資源配分の理論を習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・ミクロ経済学の観点から、消費者の需要と企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる (DPの「b.知識・理解」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 課題 (30%)、期末試験 (70%) により評価します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 イン트로ダクション 第2回 需要と供給 (1): 需要・供給と市場均衡 第3回 需要と供給 (2): 需要と供給の価格弾力性 第4回 消費者行動 (1): 効用・無差別曲線・予算制約線 第5回 消費者行動 (2): 効用最大化問題とその解 第6回 消費者行動 (3): 所得変化の効果 第7回 消費者行動 (4): 価格変化の効果 第8回 消費者行動 (5): 需要曲線と消費者余剰 第9回 生産者行動 (1): 費用の構造 第10回 生産者行動 (2): プライステイカーの利潤最大化 第11回 生産者行動 (3): 供給曲線と生産者余剰 第12回 生産者行動 (4): 独占企業の利潤最大化 第13回 市場均衡と資源配分 (1): 市場均衡の効率性 第14回 市場均衡と資源配分 (2): 政策の余剰分析 第15回 市場均衡と資源配分 (3): 独占市場の資源配分			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、教室での講義および反転授業を取り混ぜて行う。反転授業の回では、予習用の教材に基づいて問題演習等を行う。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 反転授業の回では、事前に指定された教材を視聴する。授業終了後は、参考図書の該当箇所を読み、理解を深める。また、定期的に課される課題に取り組むことにより、学習内容を定着させる。			



**【授業形態】**

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを1冊以上選び、講義と並行して精読すること。

芦谷政浩『ミクロ経済学』、有斐閣、2009年、3100円＋税

神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年、3200円＋税

その他は初回授業時に指示します。

オフィスアワー 月曜日 4時限

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312021) マクロ経済学 I イ Macroeconomics I	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習(準備・事後学習40時間＋提出課題20時間)			
<b>授業の概要</b> マクロ経済学は、国民所得(GDP)、消費、投資、利率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。 また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。			
<b>授業の目的</b> マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡GDPの値を求めることができる</li> <li>・IS-LMモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡GDPと均衡利率の値を求めることができる</li> <li>・円高、円安といった為替レートの変化や、私たちを取り巻く人口動態の変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる</li> </ul>			
※試験では上記以外のことも出題します			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験80%＋提出課題20%」の『総合得点』を用いて評価します。 ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」、「出席回数が授業回数の2/3以上であること」を単位取得の条件とします。出席管理は、ムードルのアンケート機能を用いて実施します。忘れずに回答してください。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料(＝未提出でも減点なし)として用いる場合もあります。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
1. 『授業のガイダンス』(グループワーク予定あり) 2～3. 『マクロ経済学とは何か?』 4～8. 『45度線モデルと前半のまとめ』(7 or 8回目にグループワーク予定あり) 9～13. 『IS-LMモデルと後半のまとめ』(13回目にグループワーク予定あり) 14～15. 『現代トピックスと授業のまとめ』(14回目にグループワーク予定あり)			
受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。			
<b>自主学習のアドバイス</b> 1. 参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう。(提出課題4時間) 2～3. 【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう。(6時間) 4～7. 【復習メイン】授業内容の理解に加えて、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう。(6時間＋提出課題8時間) 8～14. 【復習メイン】宿題にしっかり取り組み、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう。(20時間＋提出課題8時間) 15. 期末試験に向けて総復習しましょう。(4時間＋提出課題4時間)			
この講義では、受講生が毎回、『宿題を含む自主学習により、前回までの授業内容をしっかり復習して理解していること』、『欠席した場合は、その回の授業内容を周囲の友人・知人に聞いて完全にフォローしていること』を前提に進めていきます。 時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしばって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ2時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。			

教科書・参考書等

教科書は指定しません。

マクロ経済学のテキストは多数出版されていますので、図書館等で自分にとってわかりやすい説明だと思うものを選んで、適宜使用してください。同じ内容についても、複数のテキストを同時に参照して理解を深めることもおススメです。

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ2列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※グループワークを数回実施予定です。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312022) マクロ経済学 I ロ Macroeconomics I	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習(準備・事後学習40時間＋提出課題20時間)			
<b>授業の概要</b> マクロ経済学は、国民所得(GDP)、消費、投資、利率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。 また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。			
<b>授業の目的</b> マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡GDPの値を求めることができる</li> <li>・IS-LMモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡GDPと均衡利率の値を求めることができる</li> <li>・円高、円安といった為替レートの変化や、私たちを取り巻く人口動態の変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる</li> </ul>			
※試験では上記以外のことも出題します			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験80%＋提出課題20%」の『総合得点』を用いて評価します。 ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」、「出席回数が授業回数の2/3以上であること」を単位取得の条件とします。出席管理は、ムードルのアンケート機能を用いて実施します。忘れずに回答してください。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料(＝未提出でも減点なし)として用いる場合もあります。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
1. 『授業のガイダンス』(グループワーク予定あり) 2～3. 『マクロ経済学とは何か?』 4～8. 『45度線モデルと前半のまとめ』(7 or 8回目にグループワーク予定あり) 9～13. 『IS-LMモデルと後半のまとめ』(13回目にグループワーク予定あり) 14～15. 『現代トピックスと授業のまとめ』(14回目にグループワーク予定あり)			
受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。			
<b>自主学習のアドバイス</b> 1. 参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう。(提出課題4時間) 2～3. 【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう。(6時間) 4～7. 【復習メイン】授業内容の理解に加えて、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう。(6時間＋提出課題8時間) 8～14. 【復習メイン】宿題にしっかり取り組み、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう。(20時間＋提出課題8時間) 15. 期末試験に向けて総復習しましょう。(4時間＋提出課題4時間)			
この講義では、受講生が毎回、『宿題を含む自主学習により、前回までの授業内容をしっかり復習して理解していること』、『欠席した場合は、その回の授業内容を周囲の友人・知人に聞いて完全にフォローしていること』を前提に進めていきます。 時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしばって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ2時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。			

教科書・参考書等

教科書は指定しません。

マクロ経済学のテキストは多数出版されていますので、図書館等で自分にとってわかりやすい説明だと思うものを選んで、適宜使用してください。同じ内容についても、複数のテキストを同時に参照して理解を深めることもおススメです。

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ2列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※グループワークを数回実施予定です。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。